



ゆたか福祉会キャラクター  
ゆたかめくんとみらいちゃん

# 障害者の ゆたかな未来をめざして



「私のときめく色」 ゆたか希望の家 長谷川 みさ子さん ※紹介が11ページにあります。

## CONTENTS

- ▶ 私たちの実践 ～障害のある人の『働く』を支える～…………… P2～3
- ▶ 寄稿 ケアマネとして働く私と介護…………… P4～5
- ▶ 2023年度資格取得者紹介…………… P6～7

2023年6月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3  
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・  
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ

私たちの実践  
〜障害のある人の『働く』を支える〜

## 第4回 つゆはし作業所

### ゆたか一、恵まれた環境に感謝

〜つゆはし作業所北区清掃現場  
(ティンクルなごや清掃事業)の取り組み〜



【事業と定員】  
就労継続支援 B型 —10名  
生活介護事業 —20名



一緒に働く皆さん

### ■はじめに

この事業は、名古屋市重症心身障害児者施設ティンクルなごや（以下、ティンクルなごや）指定管理者である社会福祉法人むつみ福祉会より清掃事業委託を受け、2015年5月11日ティンクルなごや開設と同時に、トライズ就労継続支援 B 型事業「施設外就労（※注1）として始めました。

### ■トライズでの1年 〜土台作り〜

利用者2名、職員4名の計6名で始まったトライズでの1年は、全てにおいて手探り状態、試行錯誤の日々でした。当時トライズは前身である資源回収みなみでの空きビン・空きカン回収事業（A型）に加え、新規で施設外就労での清掃（A型）と法

人内清掃、洗濯（B型）にティンクルなごや清掃と5事業を行っていました。

そのなかでもティンクルなごや清掃は北区にあり、西区に拠点を設け事業を行うことになりました。大きな課題は利用者確保です。北区に拠点がなかったため、地域との繋がりが薄く、他法人や各区基幹センターへ相談に行きました。

利用者が少ないため、作業は職員で従事することが多く、職員のなかには当初描いていた思いとは違うことに見通しがもてず、悩む姿がありました。私自身も気持ちに余裕が持たず、他の職員に相談しないまま事を運ぶことが多く、不満を募らせていたと思います。今となっては反省しかありませんが、当時の私は、他

の職員が不満を募らせていることすら気づいていなかったと思います。

トライズでの1年は、今振り返れば「土台作り」であったと思います。利用者が少なく職員が従事することになっても、それは「利用者が増えた時に作業を一緒に行うまで有効に使える時間を与えてもらった」と思うことで前に進めていけたと思います。冬頃からは当時のワークセンターフレンズ星崎相談支援専門員（以下、相談員）の協力で少しずつ利用者も増えてきました。しかし支援に対する新たな課題もみえてきました。

### ■老舗に入る難しさ

〜つゆはし作業所への移管〜  
ティンクルなごや清掃が2年目になり、トライズからつゆはし作業所

（以下、つゆはし）へ事業移管が決まりました。移管後、つゆはしで作業していた利用者もティンクルなごやでの施設外就労を行うことになりました。

まず課題になったのは障害特性です。トライズ利用者は精神障害をもつ利用者、つゆはし利用者は知的障害をもつ利用者でした。利用者確保の相談をしていたときも相談員からは「清掃のニーズは精神障害を持つ方に多い。支援の質も知的障害と違うので知識を身につけていかないといけない」と助言をもらいました。

精神障害の方は半日利用が主となっていたので、作業担当も精神障害の利用者は個人で、知的障害の利用者は個人と集団の2つに分けて作業することにしました。また静かな

場所での作業を希望された利用者については病棟外作業を担当してもらい、配慮しながら進めていきました。利用者同士の交流は少ないもの、お互いを認め合いながらの作業となりました。

そして大きな課題となったのが事業所との連携です。移管前に十分な交流もできずに移管となったことが、大きな要因でした。管理職と現場職員との顔合わせにも時間を要し、土曜日も現場業務のため方針会議・モニタリング会議などにも十分に参加できない状態が続くと、自然と事業所から気持ちが悪れていくことを感じていました。しかしトライズ職員や相談員が声をかけてくれたことや、窓結露拭き取り作業を事業所利用者や職員が作業することで、少しずつ距離が近くなっていきました。

トライズのとほきに感じなかった連携の難しさは、事業体ができている施設に他から移管するということです。事前に十分交流ができていれば違ったかもしれませんが、つゆはしという老舗に新規事業が入る運営の難しさを体感できました。



## ■問われた病院清掃 受託業者としての専門性

〜果敢にチャレンジ〜

ティンクルなごやや医療施設も兼ねており、病院清掃の専門性が必要となります。開設時に「医療関連サービスマーク」取得指示があり、申請するためには病院清掃受託責任者講習が必須で、「病院清掃経験半年以上で3年経過している者」が講習可能な条件でした。

条件は満たしていたので受講し、医療関連サービスマーク取得に向けて準備に取り掛かりました。しかし初めてのことなので未知のことしかなく、準備に時間がかかり、受託3年目にしてようやく申請し、審査を経て取得することができました。審査日も審査員から数々の指摘があり落ち込みましたが、指摘されることで気づく部分ばかりで、事業に活かせる部分が多くありました。

## ■ティンクルなごやとの関わり スタッフのやさしさに 包まれながら

はじめにティンクルなごや総務課長よりコメントをいただきましたので紹介します。

『開設以来、清掃をお願いしています。施設が気持ちよい空間となるよう支え続けていただき、安心してお任せしており、いつもありがたく思っています。スタッフのことも覚えてくださって、毎日挨拶を交わして私達も元気をもらっています。』

作業に従事するなかで、スタッフのみなさんから「ありがとうございませ」と言葉としてもらうことに本当に感謝をしています。利用者もその言葉が励みとなり、より一生懸命に作業に取り組むことができます。

また行事に参加することでの交流が、より良い関係を築くことにつながっています。つゆはしの夏冬シヨツプにも協力していただいています。我々が作業しやすい環境を作っていただき、声をかけてもらい、やさしさに包まれながら、スタッフの笑顔に元気をもらい支えてもらっています。この環境で仕事ができる喜びは、本当に恵まれていると思います。

## ■おわりに

この事業が始まり9年目に入りました。今、「何が大変だった？」と問われても答えることは出来ません。また、掲載しきれないほどの喜怒哀楽もありました。しかし現在継続ができていることは、むつみ福祉会の皆様、受託当時のトライズ所長をはじめ皆様のお力添えがあつてのことです。

現状で満足するのではなく、今後の課題も意識しながら、事業運営をしていきたいと思えます。最後に誌面を通じてですが、この事業運営にお力添えいただいた皆様にお礼を申し上げます。そして今後ともよろしくお願いたします。

石田 和久

※注1 施設外就労

施設利用サービスを原則としながら、利用者と職員が一緒になり施設外にて作業を行うこと

ティンクルなごやが発行するティンクルなごや通信12号・13号、スタッフブログ2022年7月・12月でもつゆはしの清掃や行事などが配信されています。詳しくはティンクルなごやホームページをご覧ください。



脳性麻痺による言語障害を持つ母と、母を支える網膜色素変性症の障害を持つ父を、このコロナ禍にて自宅で看取りました。

二人は多くの支援者に支えられ、良い人生を全うできたと感じています。

## がむしゃらに人生を生きて

昭和一桁生まれの両親は、戦後の混乱期に青春時代を迎え、十分な教育を受けることのない中、がむしゃらに生きてきた人たちでした。言語障害がある母は、友人をつくることが苦手で、人付き合いを避けてきま

# ケアマネとして働く私と介護 〜母と父を看取って思うこと〜

した。母は71歳の時に脳出血を発症し左マヒが残り、その後は父が献身的に支えてきました。そんな父がその6年後、腰椎圧迫骨折とともに認知症を発症し、自らが介護の必要な状況になりました。

## 介護保険と 障害福祉サービスの活用

その後訪問看護、往診、福祉用具等を利用することとなり、文字通り老々介護を介護保険サービスで支えてもらいました。しかし、介護保険では丸抱えはできず、障害福祉サービスと併用しながら、二人とも要介護5の認定を受け、1日4回ヘルパーさんには年末年始の休みもなく訪問をお願いしていました。

おかげで、両親はそんな環境下であっても、いつも笑顔でいられます。私も仕事と家庭を両立するために、中々協力はできませんでしたが、その状況を理解しながら、様々な支

援者が協力し合って、仲の良い両親を支えてくださいました。私の中で夫婦二人を離れ離れにする施設は考えられず、両親が車いす生活の中で、私が福祉の仕事をしているのに何もしてあげられない自分に、子として歯がゆさを常に抱えていました。

## 様々な支援者に支えられて

2020年2月、コロナ流行が始まった頃、主治医から父が心不全の末期と説明を受け、支援のない夜だけは毎日泊るようにしました。呼吸が辛くてもがく父の背中をさする事が出来なかったのですが、水分制限をしていたため、使用していた尿バックが詰まり易く、深夜であっても主治医は飛んできてバックの交換をしてくださいました。訪問看護さんも昼夜を問わず、いつでも相談に乗ってくれました。

「父が先に逝ってしまうのだ」と覚悟をしたところ、2020年夏頃、

ケアサポート宝南 岡山加代子

不顕性誤嚥性肺炎になりました。何を食べても咽るので、主治医からは「胃ろうという延命医療を望まないのであれば寿命と受け入れ、食べることを止めることが本人にとって一番苦しみを与えないことだ」と説明を受けました。到底、事実を受け入れることはできませんでした。母がぐったりしている横で、父は呼吸ができずもがき苦しむ姿があり、「自分が両親に良かれと思って作った環境が誤りだったのでないか」と頭が真っ白になりました。私が「両親に何もしてあげられなかった」と落ち込んでいたところ、主治医の「食べなければ、何をしてあげてもいいですよ」との言葉から、一人のヘルパーさんが「皆でブルーボネットに行きましょう」と言うてくださいました。

ケアマネさんも訪問看護さんも「お付き合いしますよ」と言って下さり、天候に恵まれた9月18日、介護タクシーを利用して行ってきました。不思議と父は呼吸が終始落ち着いて



ブルーボネットにて

おり、喜んでいました。食べていない母は殆ど寝ていましたが、時々目を開けて笑顔を見せてくれました。

絶飲食の母は暫く皮下点滴をしており、点滴を一点見つめていました。ヘルパーさんは視線の先にある点滴に造花を添えてくれました。

## 母を看取って

父の健康状態もムラがあり、調子のいい時と悪い時がありました。10月8日の夜はとても調子がよく、「同期の桜」を嬉しそうに歌っていました。その姿を母は笑顔でみていました。3人で過ごす和やかな団らんでした。その翌日、安心したように母は逝去しました。

父は宝南の職員さんらの協力を得て、葬式に短時間出ることができましたが、すぐに忘れてしまいました。

その1週間後、心不全の悪化から入院をしました。相性の良い内服が処方され、その後は驚くほど回復しました。父の口癖は「お母さんはどうした?」「デイからちつとも帰ってこない」「私は嘘は言いたくなかったので、「亡くなったよ」というと」「ひとりぼっちになったのか」と寂しそうに吐露しました。いくら娘が每晚泊っていても満たされない様子でした。しょっちゅう言うので「自分も苦しく持たないな」と思うことがありました。

ただ、二人が一緒に逝かないでいてくれたことで、自分はまだ寂しい思いをしなくて済みました。2022年9月は1週間の出張がありました。ケアマネさんやヘルパーさんにも理解を得て行くことができました。父も比較的元気でいてくれました。母が亡くなったことをすぐには忘れる父でしたが、言ったスプは理解し「お母さんに命を貰ったな」と言うときもありました。

## 終末期の父とともに

2022年の暮れごろから、父は徐々に眠る時間が増えてきました。およそ食事の時以外は眠っていました。そこそこ食べてはいましたが、主治医からは「これまでの奇跡は起きないだろうと思う。食べても動かなければ難しい」と言われました。気づけば耳は殆ど聞こえていないようで、眼も全く見えていないようでした。手探りで見つけた食べ物や水分を口に運ぶことが何とか出来たのですが、3月ごろからはるい瘦が目立ってきて、言葉もほとんど出なくなってきました。仙骨に褥瘡があったのですがどんどんひどくなり、痛みと全身のかゆみの訴えだけがありました。徐々に死への身支度が始まったようでした。

訪問看護さんが毎日褥瘡処置に来てくださっていました。4月10日夜は39度台の熱がありました。アイスノンで身体を冷やし水分を補給したのですが、全て吐いてしまいました。早朝6時頃、血圧も測れず熱が下がらないこと、昨日まであった痛みかゆみの訴えが全くなないと訪問看護さんに連絡しました。ヘルパーさんは定時の8時に来て下さり、排泄

介助が済んだ頃、2人の訪問看護さんも来て下さり、全身状態を把握し早めの往診依頼をして下さいました。褥瘡処置を済ませた頃、ヘルパーさんと看護師さんと私のいるときに笑顔とともに息を引き取りました。

## おわりに

2015年頃、政府は新三本の矢として介護離職ゼロを目標に掲げました。しかし結果としては、在宅扱いの施設入所という選択をされる人もいて、実態は成立しているかは不明です。

また、介護人材の確保の困難さもあり、「自助」「互助」「共助」という考え方も生まれました。結果として、家族支援やインフォーマルサービスを中心にして、「不足部分を制度に頼る」という考えがあり、介護保険だけでは自宅の生活は困難があります。

「老化や死は、人生にとって当たり前で病気ではない」と考える場合、その老後をどう迎えるかは、本人や家族がどう覚悟をし、望む人生をどう送るかを決意することかもしれません。

支援者に支えられ、両親は最期の瞬間まで笑顔でいられたことに本当に感謝しています。

2023年度

# 資格取得者紹介

今回、新たに資格取得をされた皆さんを紹介します。  
専門的知識をもったここからが、新たなスタートです。利用者の皆さんがその人らしく働き、暮らすための伴走者として、より一層のご活躍を期待します。

## 社会福祉士



相談支援事業所ゆたか通勤寮  
鷹尾 圭介

ゆたか通勤寮での実践を重ねていくうちに「社会福祉制度を再び学び直したい」と考えるようになり、資格取得を目指しました。  
資格取得に伴い、培った知識と忍耐を糧に、今後の実践に活かしていきたいと思います。

- Question
- 資格取得を目指そうと思った動機
  - 資格を活かしてこれから頑張りたいと思うこと



ワークセンターフレンズ星崎  
荒木 雄太

利用者さんの挑戦する姿に刺激され、自分も何か頑張れることはないかと考え、社会福祉士を目指しました。  
ここで学びをとめず、少しでも誰かの役に立てる自分であれるよう、日々研鑽に努めていきたいと思えます。



グループホーム宝南の家  
石田 彩乃

資格取得を目指そうと思った理由は、学生時代に社会に貢献できる仕事に就きたいと考えたからです。  
ご利用者と携わる上でつい忘れがちになる、相手の視点に立って物事を考えた行動を大切に、寄り添う支援を心がけていきます。

## 社会福祉士 & 介護福祉士



ゆたか生活支援事業所みなみ  
小川 健斗

私が資格を取ろうと思ったきっかけは、スキルアップのためです。働くうえでスキルは必要であり、国家資格ということもありました。  
今後は、行動に移していけそうな知識から実行していきたいです。

## クリーニング師



齋藤 広樹

今年度より洗濯現場を担う事になり、「クリーニングに関する知識や技術を身に着け、作業に臨みたい」との思いから、取得を目指しました。  
現在は、洗濯機2台と乾燥機3台の小さなクリーニング施設ですが、規模を拡大し、クリーニング工場のような施設になれるよう頑張っていきたいと思えます。

## 「トライズ」の皆さん



清水 裕美

洗濯現場の事業運営には、クリーニング師配置が必須です。管理より「現場の為に資格取得を目指さないか」というお話を頂いた事をきっかけに、取得まで辿り着きました。  
専門性を持ち、現場で役立つ事が出来たらと思えます。

# 介護福祉士

ゆたか希望の家

中村 理沙子



介護福祉士を取得したいと思ったのは、大学では全く福祉の勉強をしてこなかったので「知識を広げたい」と思ったからです。

資格を活かして得た知識・技術で、より一層なかまのことを知って、実り豊かな生活を送れるように支援していきたいです。

キラリンとーぷ

後藤 康



福祉村の施設統合を見据え、介護技術向上のため資格を取得しました。実技研修では講師の指導が分かりやすく、言葉遣いやボディメカニクス等、改めて勉強になりました。

資格を活かし、利用者に寄り添う支援を目指します。

ゆたか生活支援事業所なるお

井上 樹穂



日々仲間の支援をする中、仲間の高齢期に向けての生活のことなどを考えたりする場面が、今後増えてくると感じています。一方「高齢分野の知識が不足しているな」と思い、もっと学びを深めたいと思ったのがきっかけです。

資格取得で学んだことを活かして、正しい情報を仲間と共有し、高齢期や職場の定年後の生活においても、仲間一人一人が自分らしく生活できるよう支援していきたいです。

ゆたか相談支援事業所どうとく

富永 珠代



お仕事をさせて頂いていた中で、身体介助の必要な仲間がいたため、身体介護の仕方と、より良い支援の方法を学びたくて、資格取得を目指しました。

資格を得る過程で得た知識を活かして、今の仕事に励みたいと思います。

磯崎 真子



仲間を目の前にして判断に迷ってしまうことがあり、まずは自分の知識が必要だと思い、資格取得を目指しました。

一番大切なことは、仲間の持っている力を最大限に生かすことだと感じ、これからも忘れず学んでいきたいです。

「つゆはし作業所」の皆さん

宮本 貴子



福祉に関わる者として、専門的な知識を学びたいと思い、取得を目指しました。

なかまの皆さんの気持ちに寄り添い、どうぞ支援をしていけばいいのかを日々考えながら、ここで得たものを活かしていきたいと思います。

深田 郁斗



全職員研修でもお話しさせて頂きましたが僕は勉強が大嫌いです。それでも頑張ろうと思えたのは周りの応援と自分の中の「やりきる」というプライドです。

勉強して得た知識を有効的に使うというのはもちろんのこと、それ以前に「少しずつの積み重ねでも継続して頑張ってきた」というこの自信を忘れず、今後に活かしていきたいと思います。

# 暮らしの中に彩りを

## 春を感じて

### お花見しました

#### リサイクルみなみ作業所

3月27日、自治会企画で、のんびり映画鑑賞グループと大江川緑地花見散歩グループに別れて実施。お天気も良く、気持ちよくお花見が出来ました。



#### つゆはし作業所

作業所の前には公園があり、立派な桜がたくさん咲いています。お花見は毎年4月3日に開催していますが、年々暖かくなり、桜の開花も早まってきています。公園には藤の花も咲いていて、「きれいだね」と言いながらベンチに座り、のんびりと過ごしたり、遊具で遊ぶ仲間の姿も見られました。

作業所の仲間、職員で集合写真を撮影！コロナ禍になって4年ぶりの集合写真となり、仲間も職員も嬉しい気持ちが入り込んできました。毎日、毎日忙しく仕事を頑張っている仲間たちにとって、自然に触れながらゆっくりと過ごせる有意義な時間になりました。

河合みずほ



## 初めての

### お抹茶会

#### みらいろ

みらいろが開所して5年目になります。今年度からみらいろの家族会が立ち上がり、総会を経て5月13日に、第1回定例会がスタートしました。作業所ではこの時間を活用し、8名の仲間達と初めてのお抹茶会を開催しました。

まずは、作法を学ぶところから始め、見真似で一生懸命練習。職員がお茶をたて始めると、目を輝かせながら興味深く見つめ、ワクワクしている姿が印象的でした。たてたお抹茶碗を両手で持ち、学んだばかりの作法で一服され「けっこうなおてまえで」と感想が聞かれました。

初めての取り組みなので、仲間たちが楽しめるかドキドキでしたが、素敵な笑顔がたくさん見られ嬉しく思います。次回のお抹茶会が楽しみです。

大峯穂乃海





# ゆたか福祉会 2022年度工賃実績報告

		2022年4月1日 現在の定員	2022年度 平均支払人数	2022年度 平均工賃(月額)	2021年度 平均工賃	増減 2022-2021	工賃向上計画	
							2022年度 目標	2023年度 目標
就労継続B	ゆたか作業所	15	9	29,904	29,051	853	33,750	34,091
	なるみ作業所	10	6	19,923	18,268	1,655	21,000	21,000
	つゆはし作業所	10	12	22,655	22,243	412	21,212	21,970
	ワークセンター フレンズ星崎	15	15	59,260	55,632	3,628	60,000	64,444
	トライズ	15	14	29,549	31,105	-1,556	31,845	32,738
	リサイクル港作業所	40	34	60,129	62,290	-2,161	53,632	53,846
	リサイクルみなみ作業所	35	36	75,312	87,857	-12,545	81,111	82,222
	小 計	140	126	53,284	56,517	-3,233		
生活介護	ゆたか作業所	40	26	9,118	9,117	1		
	なるみ作業所	30	31	4,455	3,494	961		
	つゆはし作業所	20	20	7,590	7,438	152		
	ワークセンター フレンズ星崎	15	14	8,043	9,013	-970		
	みらいろ	30	12	4,565	4,603	-38		
	みのり共同作業所	30	32	15,245	14,799	446		
	ふれあい共同作業所	30	33	4,160	5,051	-891		
	あかつき共同作業所	30	30	9,851	10,485	-634		
	小 計	225	198	8,122	8,360	-238		
移行支援	ワークセンター フレンズ星崎	6	4	13,375	17,579	-4,204		
就労継続A	トライズ	15	16	184,960	201,798	-16,838		
	総 計	386	344	32,930	34,049	-		

- ・ 2022年度の平均工賃は、2021年度と比べて就労継続B型、生活介護でそれぞれ減少しています。
- ・ コロナの影響で売上が減少した事業所
  - \* ゆたか作業所の給食事業では配送先の現場が休業するなどして給食の提供数が減ってしまいました。
  - \* ビンや缶の選別作業を行っているリサイクル港作業所では行動制限の緩和がすすんだことで家飲みの機会が減り、前年度と比べてビン・缶の入荷量が減少しました。
- ・ リサイクルみなみが平均工賃を大きく減少させていますが、2021年度は退所慰労金の清算をしたことで増額した背景があり、今回の減額は実績の悪化が原因ではありません。
- ・ 工賃向上計画にかかげた目標工賃は7か所中、2か所が達成しました。

4月26日、福祉・教育系の学部以外では初めての見学実習を受け入れました。

岐阜大学には地域学実習という選択科目があります。当日は「地域福祉と就労移行支援事業チーム」の3年生10名が、担当教官とともに来訪されました。

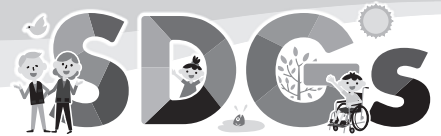
理事長と「相談支援事業所どうとく」から、法人事業についての紹介と、ゆたか作業所、ワークセンターフレンズ星崎、リサイクルみなみ作業所の現場見学を行いました。仲間たちとの交流も企画しました。

学生さん達からは「障害者の働くイメージが変わった」「改めて人権を考えた」「人に優しい社会とは障害者だけの問題ではない」などの感想やレポートが届きました。

## 初めての取り組み ～岐阜大学地域科学部見学実習～



リサイクルみなみ作業所



## SDGsの目標をめざそう

### ～はじめた その4 学びや取り組み～

#### ゆたか希望の家

つくる責任 つかう責任  
～食品ロス削減の取り組み～



ゆたか希望の家でSDGsの取り組みとして力を入れているのは、食品ロスの削減です。

SDGsは何かを我慢することではなく、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」とされています。食品ロス削減を目的とするのではなく、利用者の食事に対する満足度を高める＝残菜(食べ残し)が自然と減っていくことを目標として取り組んでいます。

希望の家ではこの数年、事業計画に「食べられる食事ではなく、食べたい食事づくり」を掲げ、食の楽しみを保障することに取り組んできました。早食い、咀嚼が弱い、嚥下機能が低下した利用者への食事支援は、「食の楽しみより咽(むせ)や誤嚥性肺炎を起こさない」といった安全を重視してしまう傾向があります。しかし、刻み食やソフト食が食事として認識出

来ないため食べられなかったり、「普段通りの食事を食べたい」という気持ちを無視することは、食の楽しみ、意欲を奪うこととなります。また、どんなに美味しく、栄養価が高い食事を作っても、口に入れてもらえなければ意味がなくなります。

こうしたなかで、安全だけではなく、利用者が口に入れたくなる、毎日の給食が利用者にとって「こちそう」になるには?という目標達成に向けて、管理栄養士を中心とした多職種連携で取り組んでいます。

何かを我慢したり犠牲にしたりするのではなく、利用者の満足度を高め、生活の質を向上し、そしてSDGsも両立できるように取り組んでいきます。

倉地 伸顕

## VIETNAM

### ベトナムの文化を知ろう!



ベトナムの代表的なヌードルといえば“フォー”だと思われていますが、それは北部が中心です。

南部ではフォーよりも“フーティウ”や“ブン”が好まれ、フエでは“ブンボーフエ”が有名です。

“ブン”はビーフン、“ボー”は牛を意味し、太麺で皆に親しまれています。朝食にも食べていますよ!



4月

- 10日(月) 事業運営推進会議  
 12日(水) 広報・ホームページ編集委員会  
 15日(土) 職員集会  
 19日(水) 所長会議  
 24日(月) 研修部会議



**一般寄附(4・5月)**  
順不同 敬称略

学校法人明星学園 明星幼稚園  
 岸本由美子  
 特定非営利活動法人夢工房

**賛助会員新規加入者・更新者」芳名一覧**  
順不同 敬称略

(4月4日～5月9日 手続き分)

丸山 了治	篠原 直人
田畑 博	篠原 美津江
浅海 嘉夫	

※利用者・保護者・職員の方から多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

**NPO法人  
夢工房様からのご寄付  
について**

NPO法人夢工房の解散に伴う残余財産をご寄付頂きました。グループホームの設置運営をめざして活動されてきた団体でしたが、活動の継続が困難となり、ゆたか福祉会に想いを託された形となりました。今後、新たなグループホーム建設などの資金として、有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

**表紙の作者紹介**

**「私のときめく色」**

ゆたか希望の家 長谷川 みさ子さん



施設の「アートの会」に毎回参加して絵を描いています。コロナの影響で中止していた時期もありましたが、昨年度からは今まで通り先生をお迎えして開催しています。この作品はみさ子さんが毎回少しずつ色を重ねていき、年単位で出来上がった作品です。「今日は何色にしますか?」と聞いて、みさ子さんの反応を見て、その日のときめく色を塗り重ねました。日によって作業スピードは異なりますが、職員とコミュニケーションをとったり、他の仲間の様子を見たりしながら「アートの会」を楽しんでいます。これからもみさ子さんのペースで絵を描くことを楽しんでいただきたいと思います。

**広報・485号**

2023年6月号(2023年6月10日発行)  
 定価1部100円  
 法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます  
 発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会  
 印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協年会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協年会費 = 年間1口 6,000円、  
 賛助会員(個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- ・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

**【お詫びと訂正】**

広報5月号の掲載内容に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。  
 表紙・P11 深谷さんのお名前 誤：博之 正：博樹

# その人らしく働く暮らす

Vol.109

## 仲間

「『慎ちゃん』は卒業！  
大変な時こそ回収魂を發揮」

トライズ 加藤 慎司さん



養護学校卒業後、一般就労を経て1991年資源回収事業部に入職。現在の回収の仲間の中

では最古参になりました。朝5時には起床し、港区の自宅から地下鉄・バスを乗り継いで、毎日昭和区のビン回収に従事してきました。東海豪雨や大雪の日も出勤。バスが来ないと港区の旧競馬場付近から歩いてくることもあったそうです。

通勤時間がかかるため、以前は夕方遅くなりそうだと「早く帰りたいの〜」とソワソワする姿もみられました。その一方、人手不足時にはこ一番の集中力を發揮。スーパーミラクルな働きぶりで魅せてくれます。

トライズの中でベテランになるにつれ、新しい仲間や職員が入ると、気さくに声をかけ「僕が教える〜」とはりきつ

て伝えてくれます。朝食がお弁当の時、他の人が使った湯のみやお椀を洗ってくれる気遣いには感謝です。

若い頃から将来を見据え、通勤寮にも入寮経験があります。この間、ホーム体験を経て「一人暮らししたい」と宣言した時期もありましたが、昨年12月から南区内のケアホームで暮らし始めました。

50歳を過ぎても姿勢や体型、やると決めたらやりきる回収魂は健在です。身体に気をつけながら、引き続きの活躍を期待しています。



トラックの上でフレーンを上げる合図

## 職員

「2年目、そしてこれから」

ゆたか生活支援事業所かさでら 鈴木美沙



私とゆたか福祉会との出会いは、企業説明会でした。そこで見せて

いただいた資料の中で利用者の笑顔や、あたたかさや優しさに触れ、自身も受けた優しさを人に返せるような仕事に就きたいという思いで入職をして今に至ります。

現在入職して2年目を迎える中で、勤務先の事業所から別の場所へ異動することはなかったのですが、事業所内で担当を任せられたホームは変わりました。

ホームの中心的な動きである、利用者主体でその人の生活スタイルと権利を守っての対応は変わらずですが、利用者の通所先や行政機関、銀行業務の面でのやり取りの仕方等の細々とした部分の対応の差異で四苦八苦しています。勤務内容自体は、日々の変化というところに面白さというのを感じており、楽しんで勤務

に入ることができています。これからやっていきたいこととしては、今はまだ何も資格というものを持っていないため、専門的な知識といったものに弱いです。勤務に入る中でわからないところ等は都度調べて対応しているため、今後のことを考えると必要に応じての資格取得を念頭に勉強をしたいと思っています。

現状支援に入る中で、どの資格がその支援にかかわる中で必要なかが、経験が浅く判断が難しい状況があります。先輩職員や関わりのある利用者家族から意見やアドバイスを聞いて、資格取得の選択をしてみようと思います。



事業所の取り組み 春のいちご狩り